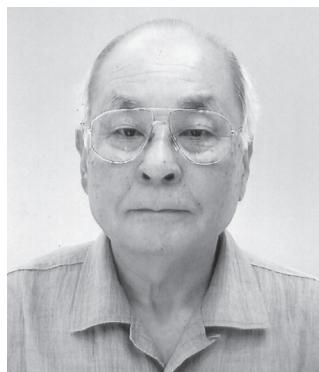




2010年1月10日

# いま起きつつあること…

# 平和講演会 から 村上伸先生の



# 死刑をどう考えるか

3

第3回田の今回は、前回に掲載した「キリスト教と死刑」という項の後半部分に触れていきます。

# 古代から中世へ— キリスト教の変化

## 4世紀初頭、当時のローマ

皇帝コンスタンティヌスにより「ミラノの勅令」が出されました。いくら迫害をしようとも衰えることのないキリスト教を、勢いの衰えてきたローマ帝国に取り入れようとしたのです。そして、コンスタンティヌスは自身も洗礼を受け、キリスト教をローマ帝国の公認宗教としました。

それ以来、キリスト教は支配者であるローマ帝国の宗教となつたのです。

それまでは奴隸の宗教と言われ迫害を受けたキリスト教が、ありゆる特権を与えられ支配者の論理で考える支配者の宗教となりました。村上先生はこの出来事が世界史上での大きな転換であったと語っています。

初代教会の頃のキリスト教は片方で迫害を受けながら、山上の説教を学び実行する」とによつて、自らの生活を清く正しく守つていたのです。

皇帝「インスタンティヌスにせり」  
り「ミリノの勅令」が出されました。  
ました。いぐら迫害をしようつ  
とも衰える」とのないキリスト  
ト教を、勢いの衰えてきた  
ローマ帝国に取り入れようと  
考えたのです。そして、「イン  
スタンティヌスは自身も洗礼  
を受け、キリスト教をローマ  
帝国の公認宗教としました。

これが、支配者側に立つようになると、迫害されねばこのか特權さえ与えられるようになり、清く正しう生活はなくなつていきました。それにはより、支配者という立場からなんとかして国家の秩序を守らなければならぬといつ考え方が出てきてしまつのです。

ではさまざまなもののが起つりました。例えば魔女狩りや異端審問など、これらはキリスト教会が主導したことです。これらはいずれも、キリスト教が支配的な地位について支配者的発想をするようになつて、イエスの精神を忘れたところから起つたことだと、村上先生は言われています。

ところが、支配者側に立つようになると、迫害されるようになります。これが特権さえ与えられるようになります。清く正しい生活はなくなりていきました。それにより、支配者という立場に何より、支配者という立場からなんとかして国家の秩序を守らなければならぬという考え方が出てきてしまったのです。

それまでは、決して戦争はない、兵隊にもならない、武器もとらないという考え方をしていましたが、支配者側に立つようになり、変わつてしまします。

例えば外国から異民族が攻めてきた場合、武器を取つてその敵と戦つて敵を倒す、それはむしろ神様の正義に適うのだという考え方になつていきました。国家の秩序を守るために、武力によって異民族を征服する」とも大切だという考え方が生まれてきたのです。

それ以来、中世ヨーロッパ

ではさまざまなもののが起つりました。例えば魔女狩りや異端審問など、これらはキリスト教会が主導したことです。これらはいずれも、キリスト教が支配者的な地位について支配者的発想をするようになつて、イエスの精神を忘れたところから起つたことだと、村上先生は言われています。

戦争、異民族征服、魔女狩りなど、多くの血を流す行為が正当化されたこの時代、死刑はあって当然だと考えられていきました。死刑は「神の応報の義」の地上におけるあらわれであると考へられていました。つまり、「神様は正しいお方で間違ったことはお許しにならない」という神様の正義を地上の権力者が行使し、悪を犯した人を裁かねばならないと考えられていたのです。

そして残念ながら、宗教改革者たちも例外ではありませんでした。例え

「このようなことが起きたら、身を起こして頭を上げなさい」（ルカによる福音書21章28節）



2010年1月10日

# いま起きつつあること…

んでした。死刑を当然のよう  
に考える、そんな時代が第一  
次世界大戦まで続くのです。

## パラダイム変換—— 従う者のキリスト教

第一次世界大戦は、ヨーロッパのキリスト教国同士が  
血で血を洗うような大戦争を  
4年間にわたって繰り返しました。

キリスト教的な世界だと言  
われていたヨーロッパにお  
いて最悪の戦争を体験した当  
時の知識人たちは深刻な衝撃  
を受けたのでした。一体、キ  
リスト教とはなんなのか、と。  
そして、世界を根本的に立て  
直さなければいけないと考  
始めました。

その時にパラダイムの変化  
がおこったと、ある神学者が  
言います。

「キリスト教におけるパラダ  
イム変化」 という論文の中で、  
その時代にはその時代の物の

考え方の枠組みのようなもの  
があると記されています。例  
えば、「天動説というパラダ  
イムが地動説というパラダイ  
ムに変わった」というように、  
その時代時代にはパラダイム  
という物の考え方の枠組みの  
ようなものがあつて、それが  
何百年間という単位で変わつ  
てきたのだと言います。

歴史上では、そのパラダイ  
ムが変わるたびに激烈な争い  
が繰り返されてきました。

一人の神学者は、それはキ  
リスト教にも当てはめる」と  
ができるのではないかと考え  
ました。

原始キリスト教の時代には  
默示録のような終末論的な考  
え方のパラダイムがあり、古  
代教会になるとギリシャ哲学  
の影響を受けてヘレニズム的  
なパラダイムに変わっていき  
ます。

中世になるとローマカト  
リック教会の支配が強くな  
り、ローマカトリック的なパ

ラダイムが全体を支配し、そ  
の後に、ルターとカルヴァン  
が出でて宗教改革的なプロ  
テスタンント的なパラダイムが  
出てきました。

支離滅裂の発想を克服するこ  
とにより、死刑の問題も根本  
的に考え直されるようになり  
ました。

神に従う者をと考えるキリ  
スト教の出現、これが現代の  
パラダイムです。教派の違い  
を乗り越えて、同じような考  
え方を深め、同じように祈り  
をもって実践していく、そ  
ういう時代になつてきました。

「このようなことが起り始めたら、身を起こして頭を上げなさい」（ルカによる福音書21章28節）

(続く)